

# 花園大学 先生のおすすめ図書

v.4.0 2016 MARCH 新入生歓迎号

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。先生のコメントが付いています。図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸出することもできます。貸出期間は1週間、貸出延長はできません。

花園大学情報センター(図書館)



大学生のための「社会常識」講座：  
社会人基礎力を身に付ける方法

松野弘編著  
ミネルヴァ書房 2011

第21代学長

丹治光浩

大学生の常識って何だろう？

近年、本書と同じような本がたくさん出版されています。一見、大学生活のマニュアル本のようにも思えますし、同様の内容はアカデミックスキルなどの授業でも学ぶかもしれませんが、学生の皆さんにはこれらの本の内容を鵜呑みにするのではなく、常識とは何か、あるいは常識の裏に潜む問題点などについても深く考えてほしいと思います。

<請求記号>  
377.9/Ma 84



古代への情熱：シュリーマン自伝

シュリーマン著 村田數之亮訳  
岩波書店 1976

文学部 仏教学科 教員

清水大介

茨の道を歩み通して自己実現する

大学入学おめでとう。さあ、これからどういう人生設計を立てたらよいのだろうか。一例としてシュリーマンを紹介しよう。シュリーマンはギリシア伝説のトロイアを初めて発掘した人だ。貧困な逆境に育ち、這い上がる武器として語学を真剣に勉強した。財産を築いてから後はすぐ引退し、ホメロスのトロイアを発掘することに生涯を捧げた。少年時代の夢を実現したのである。君に知ってほしいのは、彼が夢を実現するために、ただ一つのことを沈着に勉強し抜いたことだ。これから人生に挑戦し、夢を実現しようとする人は、まず何かに打ち込んで、自己実現をするための能力を身に付けることが必要だ。君はこれから大学生活で何に打ち込むのか。まずシュリーマンでも読んでみたまえ。

<請求記号>  
岩波文庫/青-  
420-1



### 禅が教えてくれる美しい人をつくる「所作」の基本

枅野俊明著  
幻冬舎 2012  
文学部 仏教学科 教員

吉田観禮

#### 所作はその人を物語る

華美な服を身に纏い、美しい化粧をしていても、立ち居振る舞いや言葉が汚くて幻滅する人を現代では多くみかける。しかし、所作の美しい人は顔立ちや体つきまでもが美しく見え、好感を持てる。「呼吸と姿勢を整える」「美しい言葉を使う」「朝起きたら窓を開ける」「箸や器を大切に扱う」など、生活の中のシンプルなことから始めれば、正しい所作が身につくと、禅僧である著者は語る。禅僧の所作はシンプルで、かつ美しい。姿勢、呼吸、こころ、そしてなにげない日々の生活を調べ、正しい所作と穏やかな言葉を自然に行えるようになれば、周囲の人に好印象を与えるだけでなく、その人自身の人生も輝くに違いない。

<請求記号>  
189.04/Ma 68



### 一揆

勝俣鎮夫著  
岩波書店 1982  
文学部 日本史学科 教員

平井上総

<請求記号>  
080/4-3-194

中世の一揆が単なる反権力行動ではないことは、今や広く知られるようになっております。本書はそうした一揆の社会史的研究を代表する名著であり、日本の中世における一揆について、どのような行為だったのか、またそこにどのような背景があるのかを考察したものです。本書を読めば、一揆のみならず、中世社会についても理解が広がることでしょう。



### ブリッジブック近代日本司法制度史

新井勉, 蕪山巖, 小柳春一郎著  
信山社 2011  
文学部 日本史学科 教員

松田敬之

<請求記号>  
322.16/A62

明治初年以降の日本における司法制度の歴史について詳述されている図書です。巻末には司法制度史の年表が掲載されており、その流れをつかむのに非常に便利です。法学部で法制史を学ぶ学生に限らず、文学部で日本史を学ぶ学生にも是非一読してもらいたいです。



### 国文学研究法

島内裕子著  
放送大学教育振興会 2015  
文学部 日本史学科 教員

菅修一

<請求記号>  
910.7/Sh 43

国文学の研究者でもない図書館学について学ぶ筆者が推薦するのは僭越ではあるが、著者が何に興味を抱き、どのように資料を調査するのか、その様子を生々しく描いている本書は、研究者という利用者の資料利用の実際を知ることが出来てとても興味深い。



## 戦後経済史：私たちはどこで間違えたのか

野口悠紀雄著

東洋経済新報社 2015

文学部 日本史学科 教員

山中高光

<請求記号>

332.107/N 93

教養系科目(経済学)担当そして史学科所属の教員として、皆さんにとっていずれ(特に、就活の際には)不可欠になる経済的な知識の一步と考え、本書を選びました。本書の基本な考え方は、戦後から現代までの日本経済の経済体制は、戦争遂行のために導入され1940年ごろに形成された、国家統制的(社会主義的)な仕組みが継続している(「1940年体制」)、というものです。反論(これも大切)はいろいろあるでしょうが、現代日本への警鐘として、一読の価値があると思います。



## 埴輪を知ると古代日本人が見えてくる

塚田良道著

洋泉社 2015

文学部 文化遺産学科 教員

高橋克壽

<請求記号>

210.2/Ts 52

タイトルを見ると、埴輪から昔の日本人がどんな風だったかがわかるのかと気を惹かれるでしょう。ところが、近年、考古学の世界では、埴輪といえば、人や動物の形をしている埴輪よりも、一度に大量に並べられる円筒埴輪や、家の埴輪などが注目されています。研究が多様化していくなか、本書はもっとも人気のある人物の埴輪に優しい言葉で多角的にアプローチして、埴輪の本質に迫る理解をいくつか提起しています。たとえば、巫女と一括される女子埴輪は「采女」であるとか、踊る埴輪で有名な埼玉県野原古墳の2体の埴輪は実は馬を曳く男子だなどです。しかし、もっとも著者が語りたかったのは、いまだに説得力のある説のない人物埴輪の出現について、それは中国や朝鮮の壁画古墳にルーツがあるということなのです。紹介者である本学の高橋とはまったくスタイルの違う埴輪研究の視点を授業内容と比較して読んでみてはいかがでしょうか。



## 高僧伝 1~4

慧皎著 吉川忠夫, 船山徹訳  
岩波書店 2009

文学部 文化遺産学科 教員

師茂樹

<請求記号>

岩波文庫/青-  
342-1~4

本書はその名の通り「高僧」の伝記を集めたものである。時代は一～六世紀。インドや中央アジアから中国にやってきた人々から中国出身の者まで、約五百人の伝記を収録している。現代では、大乘と小乗(という言い方はよろしくないが)、禅と念仏といった具合に仏教をいろいろに分類して見えてしまうが、本書で活写されているのはまだそのような分化がなされていない時代の仏教である。なかには権力者に女性を押しつけられて戒律を破ってしまう者、占い師として軍隊に参加する者など、我々の常識とは違う「高僧」もいて、読むたびに自分のなかの仏教観がリフレッシュされるのではないかと思う。通読するのもよいし、拾い読みするのもよいだろう。



## 捏造の科学者 : STAP細胞事件

須田桃子著  
文藝春秋 2014

文学部 日本文学科 教員

曾根誠一

<請求記号>

463/Su 13

世間を騒がせた当事者が手記を刊行したことで、再び注目を集めている「スタップ細胞」問題の顛末を、衝撃的な記者会見の最初から取材した体験を元にしてまとめた本。専門的で理解しにくい部分もあるが、基本的な問題点の整理はこの本に尽きている。科学者の基本である「実験ノート」の書き方を習得せず、杜撰で事実確認ができず、加えて再現実験が成功しなかったことから、「スタップ細胞」の存在自体が否定されている。この事件の教訓としては、研究の基本は実証性・再現性にあり、他人の論文の無断引用は勿論のこと、データを偽造したり、都合のよいように改変することなど、研究者としての資格を自ら放棄する行為に外ならないことを、再度肝に銘じたい。



## 大和の歴史と伝説を訪ねて

丸山顕徳編  
三弥井書店 2016  
文学部 日本文学科 教員

**丸山顕徳**

<請求記号>

388.165/Ma 59

奈良県の中南部は、古代の首都である。その地域の文化・芸能・産業・考古に至る広範囲の歴史と伝説を、古代から現代まで、専門分野の方々、20人余によって、分かり易く解説したものである。写真や地図だけではなく、旅の友としての道案内も掲載している。



## 涙のしずくに洗われて咲きいづるもの

若松英輔著  
河出書房新社 2014  
社会福祉学部 社会福祉学科 教員

**西岡秀爾**

### 死者と共に生きるとは？

思想家・若松英輔による「死者論」である。筆者は、2010年に妻を乳がんで亡くしている。愛することは、「別離の始まりである」という言葉がズシリと胸に刺さる。愛する人を失った著者だからこそその金言が随所に現れる。特に、「死者は生存しない。しかし臨在する」と繰り返し謳われる。つまり、死者は、遺された者のかたわらに居続け、寄り添い支えてくれると言う。亡き大切な人の存在が、確信として語られることに心打たれる。本書は、筆者にとっての「グリーフワーク(死別への適応作業)」であり、読者にとっては心が清められる1冊となります。

<請求記号>

914.6/W 21



## 若者の貧困・居場所・セカンドチャンス

青砥恭+さいたまユースサポートネット編  
太郎次郎社エディタス 2015  
社会福祉学部 社会福祉学科 教員

**吉永純**

### すでに「階級社会化」した現代は、若者を「国家内難民化」させる！？

編著者の青砥恭(あおと やすし)氏は、元高校教師。退職後、若者支援のNPOである「さいたまユースサポートネット」を立ち上げ、中学生への学習支援や若者の居場所づくりに精力的に取り組んでいる。本書の内容は、生活保護、発達障害、相対的貧困率、各地域で取り組まれている若者支援の実践など多岐に及ぶが、いずれもが、私たちの立ち位置の確認や即実践に役立つ話ばかりである。氏が、このままでは若者は「国家内難民化」と警告する。今、そうならないための処方せんを学ぶべきときである。

<請求記号>

367.61/A 56



## ぼくのニセモノをつくるには

ヨシタケシンスケ作  
ブロンズ新 2014  
社会福祉学部 臨床心理学科 教員

**小川恭子**

### 自分について考える絵本

「『アイデンティティ』ってなんだろう」「『自己理解』は難しい」・・・などと思ったときに、ヒントがもらえるかもしれません。楽しみながら、大人にもたくさん考えさせてくれる本です。

<請求記号>

726.6/Y 92



### 医療従事者のための同意能力評価の進め方・考え方

Scott Y.H. Kim [著] 成本迅監訳  
新興医学出版社 2015

社会福祉学部 臨床心理学科 教員

#### 小海宏之

<請求記号>  
490.15/Ki 31

#### 医療同意能力評価を考えるための、数少ない成書

医療同意能力評価は、インフォームドコンセントの在り方や患者の人権などを考えるうえで非常に重要な事項である。しかし、わが国には医療同意能力評価に関する成書は数少なく、貴重な本である。



### モモ：時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語

ミヒヤエル・エンデ作 大島かおり訳  
岩波書店 1983

社会福祉学部 臨床心理学科 教員

#### 橋本和明

<請求記号>  
909.08/I 95/37

「聴く」ことの大切さを教えてくれる児童文学です。モモという登場人物は現代のいうカウンセラーであり、いかに「聴く」ことが治療的なことを生み出すかと教えてくれます。将来、カウンセラーや対人援助職、教師、僧侶になろうとしている人にはお勧めです。



### スタンフォードのストレスを力に変える教科書

ケリー・マクゴニガル著 神崎朗子訳  
大和書房 2015

社会福祉学部 臨床心理学科 教員

#### 小谷裕実

<請求記号>  
493.49/Ma 15

#### ストレスははたして悪者か？

ストレスは悪いものとの思い込み、ストレスとホルモンの関係、困難にぶち当たったときに強くなるにはどうすれば・・・など、目からうろこの研究が紹介されています。かつて、ビデオを視聴し、学生たちに好評だった講演内容を書籍化されたものです。



### 保育士おとーちゃんの「叱らなくていい子育て」

須賀義一著  
PHP研究所 2015

社会福祉学部 児童福祉学科 教員

#### 保田恵莉

<請求記号>  
PHP文庫/す-20-1

#### 保育士をめざす人のために

保育士経験から、主婦として平日昼間の親子の観察をすることで生み出された筆者の具体的で現代的な育児本です。子ども自身の力を伸ばすことの大切さや、親自身が子どもの心理・発達の理解をすること、そのための共感や、受容を重ねて互いの心のパイプを太くしていくことを知らせつつ、叱りつけなくても保育者の注意を聞けるようになり、さらに叱りたくなること自体が減り、結果、『そもそも叱らなくてもいい可愛い子供』にしまおうというテーマに絞ってまとめられており、保育士養成校の学生にとって、心の栄養になる一冊です。



子どもが育つ条件：家族心理学から考える

柏木恵子著  
岩波書店 2008  
社会福祉学部 児童福祉学科 教員

山口真希

<請求記号>  
岩波新書/1142

いま、子育てに「異変」が起きていると言われています。なぜ親子にまつわる様々な問題が起こるのでしょうか。本書は家族の心理が社会のなかでどのように変化しているのかを辿りながら、問題が引き起こされる原因は何かを解き明かしています。そしていまを生きる親子がともに成長・発達するためにはどうすればよいか、子どもにとって豊かな発達環境とは何かを提案しています。読了した暁には、子育ての概念がきっと変わっていることと思います。



山びこ学校

無着成恭編  
百合出版 1979  
文学部 教職課程 教員

中善則

教職課程の授業を受ける前に！

<請求記号>  
816/Mu 13

本書は、戦後すぐに、山形県のある中学校の生徒が書いた詩や作文集です。生活の現実から学ぶ社会科授業のありかたなども勉強になりますが、なによりも、私が感動するのは、本書の最終盤に載せられている、その生徒たちがつくりあげた卒業式の答辞です。「私たちは、はっきりと言います。私たちは、この3年間、ほんものの勉強をさせてもらったのです。たとえ、試験の点数が悪かろうと、……私たち43名は本当の勉強をさせてもらったのです。それが証拠に、……人のわる口をかげでこそそいいう人はいません。ごまかして自分だけ得をしようなどという人はいません。……」と続きます。自分が教えた生徒が、こんな答辞を作ってくれたら、うれしくて仕方がないね～。これから、教職を学ぶ新入生の皆さんには、ぜひ読んでおいてもらいたい一冊です。



「学力」の経済学

中室牧子著  
ディスカヴァー・トゥエ 2015  
社会福祉学部 児童福祉学科 教員

吉田貴子

<請求記号>  
371.3/N 37

子育てにおいて、ご褒美で釣っても「よい」、ほめ育てはしては「いけない」、ゲームをしても「暴力的にはならない」といったことが、データを用いて教育経済学の視点から紹介されています。幼児教育の重要性についても書かれており、一読したらおもしろいですよ。



英語になりにくい日本語をこう訳す：  
日本語的発想・英語的発想

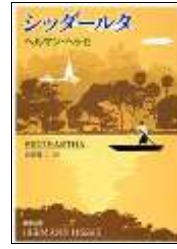
山岸勝榮著  
研究社出版 1998  
文学部 外国語教育課程 教員

有吉淳一郎

<請求記号>

837.5/Y 23

いきなりですが、みなさんは、「このボタンを押すとエレベーターが動き始めます」という注意書きを、どのように英語で表現するでしょうか。「～すると」とあるので、If you press this button, the lift will begin to move.という文が思い浮かぶかもしれません。もちろんこの文章自体は間違いではないのですが、英語らしい表現ではありません。ではどうするか？Push this button and the lift will start.など、命令文の形式を用いるのです(Please～としない点にも注意)。本書には、このような英語的発想に基づく表現方法が満載です。ぜひご一読を。



シッダールタ

ヘルマン・ヘッセ著 高橋健二訳  
新潮社 2012  
文学部 外国語教育課程 教員

衣川賢次

<請求記号>

新潮文庫/ヘー  
1-11

ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』岡田朝雄訳、草思社(943.7/H53)

『ヘルマン・ヘッセ全集』第12巻 岡田朝雄改訂訳、臨川書店(948.78/H53/12)

ヘッセの『シッダールタ』の新訳が草思社(2006年)から出たとき、さっそく読んでみたが、すでに馴染んでいる高橋健二訳(新潮社版全集、新潮文庫)の印象が強かったせいか、そのときはさほどの新味が感じられなかった。しかし物語そのものには、このときも深い感動を新たに覚えた。このたび臨川書店が、この全集の売れない時代に思い切った企画を打ってくれて、わたしは心から感謝するのだが、第一期の最終配本に岡田朝雄訳を改訂して収録していたので、この全集版『シッダールタ』(2007年)をまた読んだ。高橋訳と対照してみると、新訳は訳語の選択に注意が払われ、全体的に読みやすくなっている。高橋訳の典雅さには及ばないが(新訳はあるいはそれを意識して避けたか)、高橋訳では意味がはっきりしなかったところ、つまりは読んでよくわからないまま注意もしなかったところが、今回はすんなり理解できた。たとえば高橋訳「世界の統一」というあいまいな訳語が、新訳では「世界の一如性」とされて注釈が附されている。これは佛教や佛教語とその理解にかかわる問題で、たしかに新訳の意義はあると思った。そして新訳によって、以前は読み飛ばしていたところに新しい発見をし、ヘッセの東洋研究が非常にすぐれていたことに感心した。